

令和2年度兵庫県青少年赤十字研究会報告書



目 次

| | | |
|------------------------------|-----------|----|
| 1. 兵庫県青少年赤十字研究会開催要項 | ・ ・ ・ ・ ・ | 2 |
| 2. プログラム | ・ ・ ・ ・ ・ | 3 |
| 3. 青少年赤十字研究推進校研究報告（要旨と発表データ） | | |
| (1)芦屋市立精道小学校 | ・ ・ ・ ・ ・ | 4 |
| (2)丹波篠山市立城南小学校 | ・ ・ ・ ・ ・ | 7 |
| (3)兵庫県立柏原高等学校 | ・ ・ ・ ・ ・ | 10 |
| 4. 青少年赤十字研究推進校設置要項 | ・ ・ ・ ・ ・ | 16 |
| 5. 青少年赤十字研究推進校一覧（過去3ヵ年） | ・ ・ ・ ・ ・ | 17 |
| 6. 研究会における発表の風景 | ・ ・ ・ ・ ・ | 18 |

令和2年度 兵庫県青少年赤十字研究会 開催要項

- 1 趣 旨 青少年赤十字活動を学校生活において実践することにより、児童・生徒の自主性と指導性を養い、世界の平和と福祉に貢献できる青少年育成を目指す。
日本赤十字社兵庫県支部では青少年赤十字研究推進校を設け、研究を委嘱しており、本研究会は研究推進校が実践している研究の成果を発表・共有することにより、各学校での青少年赤十字活動の充実と活性化を図ることを目的とする。
- 2 日 時 令和3年1月31日（日）13:00～15:00
- 3 会 場 日本赤十字社兵庫県支部、各学校
- 4 開 催 形 式 Web形式（Zoomを使用）
- 5 主 催 兵庫県青少年赤十字協議会
兵庫県高等学校青少年赤十字協議会
兵庫県中学校青少年赤十字協議会
兵庫県小学校青少年赤十字協議会
日本赤十字社兵庫県支部
- 6 後 援 兵庫県教育委員会
- 7 研究発表校 芦屋市立精道小学校
丹波篠山市立城南小学校
兵庫県立柏原高等学校

プログラム

【敬称略】

(1) 開会

| | | | |
|------|-------------------|------|--------|
| 開会挨拶 | 兵庫県青少年赤十字協議会 | 会長 | 世良田 重人 |
| | 日本赤十字社兵庫県支部 | 事務局長 | 大久保 博章 |
| 来賓挨拶 | 兵庫県教育委員会事務局 高校教育課 | 指導主事 | 藤原 一平 |

(2) 青少年赤十字研究推進校活動報告、質疑応答【敬称略】

① 芦屋市立精道小学校

研究テーマ：阪神淡路大震災を語り継ぐ

報告者：田畑 睦子、藤田 凜、栗林 佑宇、篠田 花菜、高澤 紬
高見 里奈（教諭）

② 丹波篠山市立城南小学校

研究テーマ：「気づき・考え・実行する ～主体的に判断し、行動する児童をめざして～」

報告者：奥村 敏之（教諭）

③ 兵庫県立柏原高等学校

研究テーマ：①防災教育の推進

②丹波市在住外国人との交流の推進

③丹波市・柏原町の観光促進

報告者：芦田 光咲季、岸本 陽香、佐野 琴美、足立 鈴 後藤 愛羅
時武 佑芽、安達 朱那、田中 清香、畑 奈々佳
久保 哲成（教諭）

(3) 講評

赤十字活動指導講師/兵庫県青少年赤十字賛助奉仕団 委員長 中島 健治

(4) 令和2年度青少年赤十字活動等について

日本赤十字社兵庫県支部 事業部奉仕課 青少年係長 渡邊 悠介

芦屋市立精道小学校 阪神淡路大震災を語り継ぐ

《活動の要旨》

芦屋市立精道小学校校区は、阪神淡路大震災で 7 割が全半壊という被害を受けました。その地震により、8 人の子どもと 6 人の保護者が亡くなりました。また、精道小学校に入学してくるはずだった 15 人の子どもも亡くなりました。精道小学校では、この日を忘れないために、毎年 12 月には語り継ぐ会、そして 1 月 17 日には追悼式を行っています。

精道小学校では、各学年で防災学習をする内容が決まっています。

1 年生は、毎年「みりちゃんのたね」について学習します。みりちゃんは、震災当時 5 歳で、精道小学校に入学してくるはずの女の子でしたが、震災で亡くなりました。震災後、みりちゃんの育てていた朝顔の植木鉢が見つかり、そこからとれた朝顔の種を代々精道小学校の 1 年生が育てています。

2 年生は、復興のひまわりについて学習します。ひまわりおじさんというおじさんが、精道小学校のみんなを元気にするため、震災の翌年にひまわりの種を運動場に植えてくれました。そのひまわりを毎年 2 年生が大切に育てています。

3 年生は、精道小学校の校庭にある、祈りの碑を学習します。碑がつくられた経緯や、込められた想いを学習します。

4 年生は、希望りんごについて学習します。希望りんごとは、阪神淡路大震災からの復興を願って、2008 年に精道小学校に植樹されたりんごの木のことです。亡くなった子どもの数にあわせて 8 本植えました。しかし、希望りんごの木は、生長不良で 6 本になってしまい、長い間そのままでした。ところが、2018 年に同じりんごの木を持っていた施設から 1 本譲り受けることができ、そして、今年は 2008 年にりんごの木をもらった団体から、もう 1 本もらえることができました。これでようやく 8 本のりんごの木がそろいました。

5 年生は、防災絵本「この町がすき」について学習します。この本は、芦屋市の先生たちが作った学習絵本です。阪神淡路大震災の当時の様子が詳しく描かれています。防災絵本を読んで、気づいたことや疑問に思ったことを話し合いました。

そして、6 年生は、6 年間の学習のまとめとして、12 月に 5 年生に対して語り継ぐ会を行います。毎年、遺族の方や当時精道小学校に勤めていた先生などから、直接話を聞きます。そこから考えたことや伝えたいことをまとめ、5 年生に語り継ぎます。

今年も 1 月 17 日に追悼式を行いました。今年は日曜日ということもあり、たくさんの地域の方が献花に来られました。追悼式では、校長先生が追悼の辞を述べられ、児童代表による話もあります。また、今年は、1 年生で学習をする「みりちゃんのたね」の作者の方から追悼の言葉をもらいました。そして、追悼式の最後には、全校生一人一人が手作りの献花を供えます。命の大切さ、語り継いでいくことの大切さを改めて感じました。

これからも、代々語り継がれてきたことを次の世代へとつなげていき、命の大切さを考えていきたいです。



・3年生 祈りの碑

精道小学校の東門には祈りの碑があります。裏には亡くなった8人の子どもの名前と亡くなった保護者の方の名前が刻まれています。

1995年1月17日 兵庫県南部地震
(阪神淡路大震災)
◎芦屋市精道小学校では・・・
8人の子どもと6人の保護者、そして精道小学校に入学してくる予定の15人の子どもたちが亡くなった。
◎その日を忘れないために・・・
・各学年の防災学習
・1月17日 追悼式

・4年生 希望りんご

各学年の具体的な取り組み

・1年生 みりちゃんのあさがおのたね

・4年生 希望りんご

・2年生 ひきついだひまわり

・5年生 この町がすき

- 6年生 ゲストティーチャーの方のお話を聞いて



追悼式



- 6年生が5年生に語り継ぐ



亡くなった8人のことや、
当時の様子など、調べ
たことを6年生が5年生
に伝えます。

ご清聴ありがとうございました

丹波篠山市立城南小学校

(研究テーマ) 気づき・考え・実行する ～主体的に判断し、行動する児童をめざして～

《活動の要旨》

「夢や希望をもち、個が輝く楽しい学校づくり～世界に通じる国際人の育成～」を本校の教育目標とし、こころ豊かに将来を切りひらくたくましい力を培い、安全・安心な学校づくりを進めるとともに、夢や目標をもつ自立した児童の育成をめざした。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のために、例年のような地域とのかかわりや学校内での仲間づくりを行うことが困難であった。しかし、新型コロナウイルス感染症について児童・教職員が一緒に考えることで、「健康・安全」についてより深く学ぶ機会となった。

＜新型コロナウイルスについて調べ発信＞

学校再開後、6年生が新型コロナウイルスについて調べ、感染症対策をポスターにまとめて校内に掲示した。国語科「防災ポスターを作ろう」の単元を、現在最も対策が必要なものは何かを児童と相談し、「コロナ対策ポスター」に変えておこなった。マスクの着用や手指消毒、ソーシャルディスタンスなど、どの学年の児童にもわかるように呼び掛けた。教職員が対策を呼び掛けるだけでなく、児童が調べて感染症対策を考えることで、感染症対策の意識が高まり、児童同士で声を掛け合う姿が増えた。

＜コロナ禍での仲間づくり＞

新型コロナウイルス感染症対策のために、1年生を迎える会など、毎年行っていた行事が行えなくなった。行事だけでなく、密集・密接・密閉をさけるために普段の仲間とのかかわりも少なくなった。そこで、児童会と教職員で相談して感染症対策を行いながらの行事を考えた。1学期末に行った夏祭りでは、縦割り班の小集団で学校全体に分かれたブースをめぐる。入学してから、他学年との交流がなかった1年生にとっても、他学年の児童にとっても互いを知るよい機会となった。2学期は運動会の規模を縮小してスポーツフェスティバルという行事を行った。その中の競技の一つを6年生が考えた。感染症対策をしながら、異学年で交流できるように一輪車を二人組で押すなどの工夫を行った。

感染症のために全ての行事や異学年の交流を中止するのではなく、どうすればできるのか対策を工夫して考えることで、柔軟な発想や偏見や差別をなくす合理的な考え方が児童の中で育つと考えた。

＜コロナ差別や偏見をなくす取り組み＞

本校がある丹波篠山市はコロナの感染者が少なく、本校の児童もコロナによる差別や偏見、いじめや悪ふざけをしている姿が見られない。しかし、そういった姿が見られる前に予防として、新型コロナウイルス差別・偏見をなくそうプロジェクトの実践を行った。映像資料から、病気、感染、差別の負の連鎖について話し合った。感染症対策を行うことは当然ながら、感染症にかかった時、体調不良になった時、言いやすい環境を作ることで、感染症の拡大が止められることがわかった。また、差別の多くが理解不足から起こること、正しい知識を持つことの大切さを学んだ。

丹波篠山市立 城南小学校



令和2年度 青少年赤十字（JRC）活動中期計画

丹波篠山市立城南小学校

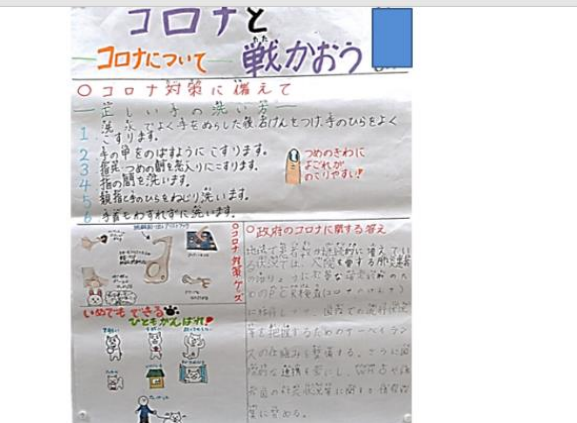
本校の教育目標
【夢や希望をもち、国が輝く楽しい学校づくり】

気づき・考え・実行する
主体的に判断し、
行動する児童をめざして

研究推進組織

研究委員会
研究推進委員会
学校運営協議会を中心としたPTA、教員以外関係者との連携

| 実施年度 | 実施内容 | 実施時期 | 実施場所 |
|------|------|------|------|
| 1 | ... | ... | ... |
| 2 | ... | ... | ... |
| 3 | ... | ... | ... |
| 4 | ... | ... | ... |
| 5 | ... | ... | ... |
| 6 | ... | ... | ... |
| 7 | ... | ... | ... |
| 8 | ... | ... | ... |
| 9 | ... | ... | ... |
| 10 | ... | ... | ... |
| 11 | ... | ... | ... |
| 12 | ... | ... | ... |



新型コロナウイルスについて調べ発信



コロナ禍での仲間づくり



夏祭り



コロナ差別や偏見をなくす取り組み



(1) 新型コロナウイルス感染症について、正しいことを学びたい
 正しいことを学びたい。正しいことを学びたい。正しいことを学びたい。

(2) 新型コロナウイルス感染症について、正しいことを学びたい
 正しいことを学びたい。正しいことを学びたい。正しいことを学びたい。

(3) 新型コロナウイルス感染症について、正しいことを学びたい
 正しいことを学びたい。正しいことを学びたい。正しいことを学びたい。

(4) 新型コロナウイルス感染症について、正しいことを学びたい
 正しいことを学びたい。正しいことを学びたい。正しいことを学びたい。

(5) 新型コロナウイルス感染症について、正しいことを学びたい
 正しいことを学びたい。正しいことを学びたい。正しいことを学びたい。

スポーツフェスティバル



○児童の感想

- ・手洗いなど、しっかりと自分もコロナにかからないようにしたいし、人にもうつさないようにしたい。
- ・感染症対策は大切だけれど、誰でもかかる可能性があるのかかった人を差別するのはおかしいと思う。
- ・差別がなくなったら、みんなが言い出しやすくして感染症がひろがりにくくなると思う。
- ・ハンセン病の時と同じで、正しい知識がないと差別が生まれると思った。



丹波篠山市立 城南小学校

ちかいは、わたくしは、青葉先生を慕って、心身を強健にし、国家と世界の平和のために努力します。

研究テーマ ①防災教育の推進 ②丹波市・柏原町の観光促進 ③丹波市在住外国人との交流の推進

1. 防災教育の推進

コロナ禍の中で、多くの活動計画が実施できなくなった。6月から生徒がやっと登校できるようになったが、部員全員がそろって部会を開くことができるようになったのは、7月中旬であった。そのようななかで、夏休みから活動を始めることになった。

令和2年（2020）7月3日～4日に発災した熊本水害（球磨川水害）の募金活動から始めることにした。1年生としては、入学後、初めてのボランティア活動となった。2日間で、全員参加で、コープ柏原店の正面入口で実施した。最初は恥ずかしさがあり、なかなか大きな声で呼びかけができなかったが、募金に応じてくれる人たちから、応援の声をかけてもらうにしたがって、自分たちの活動の意義を分かり、大きな声が出るようになった。

部員たちがこの活動をとおして学んだことを3点あげておく。

- (1) 高校生がこのような活動に取り組むことが大切だと改めて実感した。
- (2) 1人1人の小さな力でもたくさん集まるとすごく大きな力になるということが分かった。
- (3) 募金してくれる地域の方とふれ合うことで恥ずかしさがなくなり温かい気持ちになった。

2. 丹波市・柏原町の観光促進 - 車いすマップのバージョンアップに向けて

車いすマップの第一版を昨年度完成させたが、不足している情報や新しくなった施設（例えば、観光客用のトイレに障がい者用トイレが増設）の情報を盛り込んだ車いすマップの第二版の作成を考えた。活動ができていなかったのも、普通では避ける夏休みの2日間と10月の1日で柏原町の中心街を調査した。調査の方法は、部員が3台の車いすに乗り手と押し手にわかれて、街なかを移動した。この移動中に、危険な場所や注意を要する場所を、調査用紙に書き留める係の部員に報告、記述してもらった。

部員たちがこの活動をとおして学んだことを3点あげておく。

- (1) 乗り手と押し手の気持ちがわかった。
- (2) いつも歩いているところでも危険があることを知った。
- (3) 実際に体験してみないと本当の怖さや思いは分からない。

3 国際交流－韓国とのオンライン交流

コロナ禍の中で、例年であれば、外国人ママのクッキング教室を年3回実施していたが、開催が不可能になったため、姉妹校の金海外国語高校とのオンライン交流を実施することを計画し、韓国側と調整をしていった。交流内容は、以下の表のとおりである。

| 回数 | 月日 | 内容 |
|----|---------------|------------------------------------|
| 1 | 8月21日（金） ～ | 生徒交流の内容打ち合わせ |
| 2 | 9月28日（月） | ZOOMでの交流ができるかのテスト、一部の生徒で自己紹介 |
| 3 | 10月23日（金） | 自己紹介：部の全員が自己紹介し、韓国のサブカルチャーの話で盛り上がる |
| 4 | 11月20日（金） | 2年生：進路について 1年生：日本で販売している韓国食材紹介 |
| 5 | 12月18日（金） | 日本のお菓子ランキング日韓比較 |

この交流を通して、部員たちが学んだことは以下の2点である。

- (1) 積極的に話すことが大切。
- (2) 言葉と国が違ってもやっぱり同じ高校生だということが分かった。

令和3年1月31日(日)
「令和2年度兵庫県青少年赤十字研究会」

- 1 防災教育：熊本水害募金（第一部）
- 2 丹波市の観光促進
1) 車いすマップ調査に向けての準備(第二部)
2) 車いすマップ調査発表（第三部）
- 3 国際交流：韓国交流（第四部）

兵庫県立柏原高等学校
インターアクト部

たくさんの人に協力してもらいました



第一部

熊本水害募金

応援の声をかけてくれました



コープ柏原店の玄関前で活動しました



感じたこと

- 1. 人に気持ちを伝えるには、自分から大きい声を出すこと
- 2. 募金活動の影響力の大きさは想像より大きいと分かったので行動することが大切
- 3. 自分たちが頑張ることで募金してくれる人が増えることが分かったので、遠く離れた場所からでも支援することが大切

コロナ感染予防のため、
フェイスシールドをしました



学んだこと

- 1. 高校生がこのような活動に取り組むことが大切だと改めて実感した
- 2. 1人1人の小さな力でもたくさん集まるとすごく大きな力になるということが分かった
- 3. 募金してくれる地域の方とふれ合うことで恥ずかしさがなくなり温かい気持ちになった

大きな声と笑顔で呼びかけました



第二部

車いすマップ調査に向けての準備

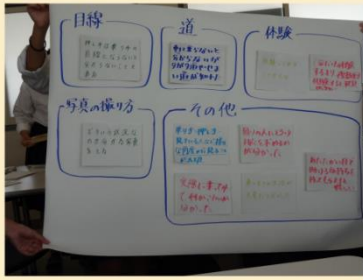
車いすマップ調査での気づきを出し合いました



学んだこと

1. もっと車いす利用者が過ごしやすい町にするために、いろいろな目線から考える事が大切

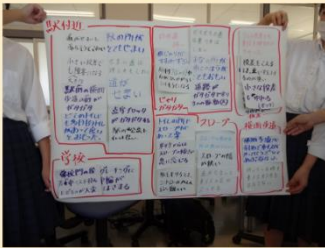
KJ法で意見をグループ化し、まとめました



第三部

車いすマップ作り調査の実施

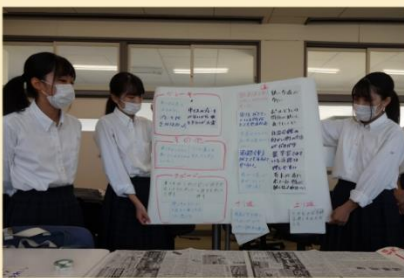
それぞれの目線で体験することが大切だと実感しました



小さな段差にも注意！



学び・気づきを発表しました



スロープの広さは大事！



感じたこと

1. 少しの段差や坂でも車椅子利用者にとっては怖いことが分かった
2. 乗り手の気持ちを考えて押すことが大切
3. 押し手・乗り手の両方の気持ちが分かった
4. 身近に危険な場所がたくさんあることが分かった

押し手は曲がるときに気を付ける



グレーチングを通るところは注意！



普段気づかないグレーチングにはまった様子



バランスを保つことが重要！



押し手は坂に気を付ける



感じたこと

1. 車いすに乗っている人は段差や坂が怖い
2. 車いすの押し手、乗り手それぞれの怖さを感じた
3. 車いすの乗り手側になってから気付くことが多い

学んだこと

1. 乗り手と押し手の気持ちがわかった
2. いつも歩いているところでも危険があることを知った
3. 実際に体験してみないと本当の怖さや思いは分からない

第四部

韓国交流

韓国の高校生とオンライン交流しました



自己紹介から始めました



日本にある韓国の食べ物を紹介しました



興味を持ってくれ、とても驚いていました



学んだこと

1. 積極的に話すことが大切
2. 言葉と国が違ってもしっかり同じ高校生だということが分かった

日本のお菓子を送って食べてもらい、感想を聞き、順位をつけてもらいました。インスタグラムの交換をして終わりました



■ ご清聴ありがとうございました

感じたこと

1. 文化や勉強に対する価値観の違いが分かった
2. 言語が違ってジェスチャーなどで伝えようとするのが大切とわかった
3. 味覚など似ているところもあった
4. フレンドリーで日本語もうまく話すのが楽しかった
5. 英語があまり話せなくても取りあえずやってみるのが大切だと思った

青少年赤十字研究推進校設置要項

日本赤十字社兵庫県支部

1 趣旨

青少年赤十字加盟校（以下「加盟校」という）における青少年赤十字活動の充実振興を資するとともに、未加盟校の啓発をはかり、もって青少年赤十字の充実振興を期するため、青少年赤十字研究推進校（以下「研究推進校」という）を設け、研究を委嘱する。

2 研究主題

研究主題は、次の活動に関するものとする。

- (1) 赤十字募金に関する活動
- (2) 防災に関する活動
- (3) 青少年赤十字の普及、育成に関する活動
- (4) 献血推進に関する活動
- (5) 奉仕活動に関する活動
- (6) 社会福祉施設における活動
- (7) 老人福祉の向上のための活動
- (8) 障がい者福祉の向上のための活動

3 研究推進校の指定及び決定

- (1) 研究推進校は、日本赤十字社兵庫県支部（以下「支部」という）が当該支部管内青少年赤十字加盟の小学校、中学校、高等学校から計6校を指定する。
- (2) 研究推進校の指定期間は1年間とし、原則として最長3年まで継続して申請することができる。
- (3) 研究推進校の指定については、兵庫県青少年赤十字協議会総会において決定する。

4 研究推進校の指定の申請

支部は毎年研究推進校の公募を行い、指定を受けようとする加盟校は、「青少年赤十字研究推進校指定申請書」(様式第1号)により4月末日(厳守)までに支部に申請する。

5 研究推進校の助成金の申請

- (1) 研究推進校の指定を受けた加盟校は、指定後速やかに「青少年赤十字研究推進校助成金交付申請書」(様式第2号)に、「助成金収支予算書」(様式第3号)を添えて、支部まで申請する。
- (2) 支部は研究推進校の研究等に必要な経費(別表参照)について、年度あたり8万円を上限として助成する。

6 研究発表及び報告

研究推進校は、「青少年赤十字研究推進校活動状況報告書」(様式第4号)及び「助成金収支報告書」(様式第5号)を、翌年度4月末日(厳守)までに支部に提出する。期日までに提出されない場合は、翌年度の申請を受け付けない。
また、活動状況等の報告を支部が開催する「兵庫県青少年赤十字研究会」において、研究発表を行う。

付 則

本要項は、昭和57年4月1日制定実施する。

本要項は、平成元年4月1日一部改正実施する。

本要項は、平成18年12月20日一部改正実施する。

本要項は、平成19年4月1日一部改正実施する。

本要項は、平成20年11月1日一部改正実施する。

本要項は、平成22年1月5日一部改正実施する。

本要項は、平成26年12月20日一部改正し、平成27年4月1日から実施する。

本要項は、平成27年12月15日一部改正し、平成28年4月1日から実施する。

青少年赤十字研究推進校一覧（過去3カ年）

日本赤十字社兵庫県支部

| 年 度 | 学 校 名 | 研 究 主 題 |
|------|-------------|--|
| H 30 | 芦屋市立精道小学校 | 阪神淡路大震災を語り継ぐ |
| | 宝塚市立末成小学校 | 学校・家庭・地域の連携を基盤にした、安心・安全、みんなに優しいまちづくり |
| | 丹波篠山市立城南小学校 | 「気づき・考え・実行する ～主体的に判断し、行動する児童をめざして～」 |
| | 兵庫県立柏原高等学校 | ① 柏原市街地の観光バリアフリーマップの作成 ② 丹波市在住のニューカマー外国人の日本人社会への親近感・信頼感を高める活動 ③ 市民の防災意識を向上させる活動 |
| R 1 | 芦屋市立精道小学校 | 阪神淡路大震災を語り継ぐ |
| | 宝塚市立末成小学校 | 学校・家庭・地域の連携を基盤にした、安心・安全、みんなに優しいまちづくり |
| | 丹波篠山市立城南小学校 | 「気づき・考え・実行する ～主体的に判断し、行動する児童をめざして～」 |
| | 兵庫県立柏原高等学校 | ① 柏原市街地の観光化促進 – 観光バリアフリーマップ作成と外国人観光客ガイド ② 丹波市在住のニューカマー外国人・韓国への理解を高める交流活動 ③ 市民の防災意識を向上させる活動 |
| R 2 | 芦屋市立精道小学校 | 阪神淡路大震災を語り継ぐ |
| | 丹波篠山市立城南小学校 | 「気づき・考え・実行する ～主体的に判断し、行動する児童をめざして～」 |
| | 兵庫県立柏原高等学校 | ① 防災教育の推進 ② 丹波市在住外国人との交流の推進 ③ 丹波市・柏原町の観光促進 |

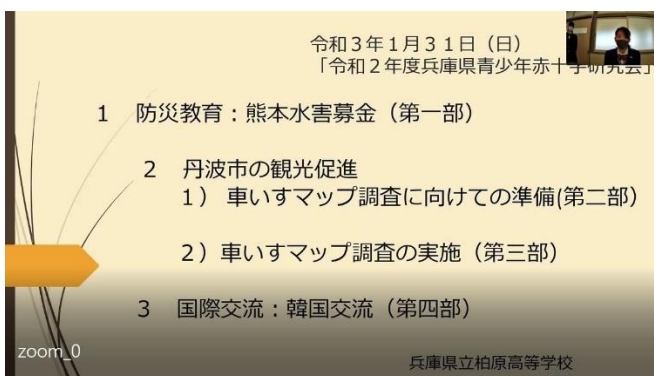
研究会 Web 風景



芦屋市立精道小学校活動報告



丹波篠山市立城南小学校活動報告



兵庫県立柏原高等学校活動報告



令和2年度青少年赤十字活動報告



 日本赤十字社 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society